

GKP 北海道の活動について

【活動の狙い】

平成 24 年 6 月「GKP（下水道広報プラットフォーム）」が設立され、様々な広報活動を展開しているところです。北海道における下水道の普及も 90%を超え、全国に先駆けて急速な人口減少時代が到来している北海道であればこそ、運営管理における課題を解決し、下水道を持続していくことは重要です。

道民の下水道への関心が大きくはない中ではありますが、今一度、下水道の価値を伝え、これからの下水道を道民みんなで考えていく環境を育むため、我々は「GKP」の趣旨に賛同し、道内における「GKP」の活動を展開しようと考えました。

スタートに当たり、組織をしっかり固めて活動を展開する途ではなく、緩やかな組織でも活動を始め、GKP の知名度を高める中で、参加者を募る方向を選択しました。今回のチカホでの一連の活動は、その趣旨に沿ったものであり、本部からの支援を受けながら、キックオフしました。

【活動のメンバー】

GKP 北海道の活動を呼びかけたのは、船水教授を先頭とした次の 12 名で、大半は現・元の札幌市職員と道の職員ですが、活動の具体的な企画を練る中で、直ちに、地元にいる民間企業の方が積極的に加入され、現在はすでに 30 名を超えるメンバーが活動しています。

会長 船水 尚行	坂田 和則	高橋 徹男	諏訪田 正美
北海道大学大学院	札幌市	(株)開発工営社	札幌市下水道資源公社
越智 通浩	清水 聡	田中 透	亀井 伸吾
北海道	札幌市	積水化学北海道(株)	伊藤組土建(株)
若山 英樹	竹内 正志	矢萩 和久	武智 弘明
北海道	JS 北海道総合事務所	道興建設(株)	(株)リブテック

【今回の活動】

9 月 9 日、10 日の 2 日間にわたって、札幌チカホで札幌市と北海道下水道協会が下水道促進デーのパネル展を開催すると聞き、私たちはその集客・誘客に協力しつつ、GKP の知名度を高める活動を展開することと考えました。

様々なアイデアの中から、実行可能な予算・準備時間・マンパワー等により次の 3 項目を展開することとしました。

- ①マンホール実物大パネル製作
- ②マンホール講演
- ③デザインマンホール総選挙

それぞれについて、様々な協力を得ながら実現できましたが、想像通りマンホール蓋のパネルには、市民の足を止める力が宿っていました。2歳の子供が見入ってくれた姿には、将来を託したくなりました。

講演では、全く業界外の方も講師を務められましたが、多くの市民が聞き入っていました。全く新鮮な切り口には、私たちも引き込まれました。

そして、マンホール総選挙では当初用意した投票用紙の約3倍の1200票という数が得られました。途中で慌てて用紙を増刷しましたが、嬉しい見込み違いでした。

写真のとおり、開会に合わせてミス日本「水の天使」、国土交通省加藤流域対策官、などのご臨席もいただき、多くの市民が見守る中、船水会長から「下水道のない生活を想像し、下水道の意義を見つめよう」というキックオフの宣言を行いました。

また、この活動に先立ち、6月から未来会やGJ会も開催しております。



【当面の課題】

活動の明るい未来を切り開き、持続することは、必ずしも容易ではありません。

GKP 北海道の活動予備軍の多くは現・元地方公務員であり、そのうち少なくない方は札幌から離れた道内各地に居住しています。こうした方々の参加を実現するために、工夫が必要ですし、またそういうメンバーが中心ということで、財政

基盤が強固になることは夢です。それでも、北海道下水道協会が事務局を受けていただける方向で議論していただいております、組織の充実面は着実に前に進んでいます。

今回のイベントを通じて、浮かび上がった2つの課題を紹介して、終わりとします。

- ①分かり易いキャッチコピーを創出することで訴求し、メンバーの増強を図る
- ②次の展開方向を掲げ、メンバーの活動リアリティを高める

近々、GKP 北海道全員が集まる機会を設営し、こうした課題を議論する予定です。

